

こうばる

川原の里を沈めるダムはいらん！

WE LOVE
KOUBARU!

石木ダム問題を 考える緊急集会 に参加しよう！



長崎県が川棚町に建設しようとしている石木ダム。既に目的は破綻しているにもかかわらず、この7月に長崎県は付替え道路工事を再開し、水没予定地 13 世帯全ての家屋を強制収用までして取り上げるのための手続きを開始して、建設を強行しようとしています。

住民の生活を奪う人権侵害以外の何物でもないこの石木ダム事業。ダムが出来れば下流域にも計り知れない悪影響がもたらされます。ここで一步踏みとどまって考えるために、下記集会を企画しました。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

呼びかけ人：石木正 尾崎澄子 炭谷猛 田崎一幸 中島三代治
松口秀之 宮崎健二 森田正昭 山本利夫

石木ダム問題を考える緊急集会

日時：2016年9月10日(土) 18時30分開始

場所：川棚町中央公民館 講堂

(川棚町中組郷 1506、TEL:0956-82-2064)

入場無料

内容： ①石木ダム事業の概要と問題点
②水没予定地・川原地区住民の思い
③ダムが出来るとどうなるのか—熊本の事例から
④川棚町民もダムはいらん
⑤佐世保市民もダムの水はいらん

主催：石木ダム問題を考える緊急集会実行委員会

問合せ：090-7292-8830 石丸

石木ダムの問題点

石木ダム事業は以下の問題点を抱えています。ダムを造る必要はありません。

1. ダムを造る理由は失われている！

① 利水面：佐世保市の水は足りている

石木ダムの目的の一つは佐世保市への水の供給ですが、誤った水需要予測に基づいています。近年の佐世保市の水需要は減少の一途を辿っており、ダムの水を必要とはしていません。

② 治水面：石木ダムは川棚川の治水対策として不要

もう一つの目的である川棚川での洪水防止ですが、河川改修が進んだことにより、城山公園下の改修が済めば過去最大の洪水が来ても溢れずに流せます。これは中村法道長崎県知事も認めています（2014年7月11日、川原公民館）。下流の内水氾濫はダムでも防ぐことは出来ません。

2. ダムを造るとどうなるのか

① かえって洪水の危険が増す

想定以上の大雨でダム湖の水が満水状態になると、洪水調節が出来なくなり、ダムは緊急放流します。そのためダムの下流では大雨による水とダム放流の水が一気に押し寄せ、水位が一気に上昇し洪水が発生します。ダムを造ると下流はかえって危険です。

② 豊かな自然環境・地域社会が失われる

ホテル祭りで有名な川原地区の豊かな自然環境とその自然と結びついた13世帯の人々の生活もダム建設によって水没し、失われてしまいます。この失われるものの価値はお金に換えることは出来ません。



③ 川棚川・大村湾への悪影響

川の水がダムによってせき止められることで様々な悪影響が発生します。ダム湖ではヘドロや異臭が発生します。またアオコの発生も予想されます。ダム湖の水が下流に流れて、川棚川・大村湾の水質は悪化します。また土砂や栄養分の供給もストップし、漁業への悪影響も考えられます。

④ 土砂が溜まってダムは使えなくなる

ダム湖に流入・堆積する土砂により、ダムはいずれ、その機能を果たさなくなります。

⑤ 総事業費 285 億円で足りるのか

石木ダム事業の現在の総事業費は 285 億円。熊本県で中止になった川辺川ダムの事業費は当初 350 億円でしたが、最終的には 2650 億円になりました。石木ダム事業も今後、資材費の高騰などで建設費は大幅に増えることが予想されます。

⑥ ダムは人権侵害、民主主義と逆行する

そのような目的が失われ、問題だらけの石木ダム建設を、地域住民への十分な説明や水没予定地・川原地区の住民の合意なしに、13 世帯約 60 名の家や田畑を強制収用までして長崎県は進めようとしています。これは人権侵害以外の何物でもなく、民主主義に逆行するものです。

今からでも遅くはありません。私たちが本気になればダムを止められます。